

令和5年第2回学校関係者評価委員会報告書

学校法人国際ビジネス学院金沢
スーパースイーツ製菓専門学校

学校法人国際ビジネス学院金沢 スーパースイーツ製菓専門学校の「令和5年度自己評価点検報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

記

開催日時：2024(令和)6年3月19日(木) 15:00～16:00

開催場所：スーパースイーツ製菓専門学校 3階会議室 オンラインにて

1. 学校関係者評価委員

<出席委員>

- ・企業等委員：金岩 重典 氏（株式会社ふらん・どーる 石川県洋菓子協会 会長）
- ・関係業界委員：加藤 高聖 氏（株式会社ぶどうの木 管理本部 総務部 部長）
- ・卒業生代表委員：沼田 和志 氏（株式会社レグレット）

<欠席委員>

無

<本校職員>

- ・本校教職員：梶聡司、村田直樹、土居千恵美
- ・司 会：村田直樹
- ・議事録作成：土居千恵美

2. 学校からの報告事項

<入学者の推移>

資料参照

学生数 2年制 54名 1年制 1名 計 55名

ガイダンス等の回数は昨年同様だったが、そこから入学者につなげることができなかった。

1年制が特に減った。県外への流出及び人口の減少が影響を受けた。

対策としては、OCの告知、体験内容の充実で充足率を高めていく

福井県の新幹線開業による福井県、富山県の流入を目指す。

<就職状況報告>

資料参照

製菓衛生師学科 100%

パティシエ・ブーランジェ学科 100%

今年度は、就職へのとりかかり、意識が低いと感じた。特に、働く意識が低く、就職活動を行わない、進まない、学生がいた。

ジャンルとしては、パティスリー以外のジャンルを目指す学生も多く幅広い業種での就職活動となった。

<現在までの取り組み、反省について行なった。>

① 入学者の推移

資料参照

② 就職状況（内定状況）

資料参照

3. 自己点検評価報告書の評価項目ごとの評価・意見等

項目	評価・意見等
1 教育理念・目的・ビジョン	特になし
2 学校運営	特になし
3 教育活動	特になし
4 教育成果	特になし
5 学生支援	特記事項
6 教育環境	特になし
7 学生の募集と受け入れ	特になし
8 教職員組織	特になし
9 社会貢献	特になし

4. 総合的なご意見、改善事項等

【特記】

5-17 進路対策について

・学生の就職進学指導に関する体制は整備されているか。

ドラフト授業について実施を検討している。

企業様が授業見学を行い、学生の様子をみて評価をしていただく。自社に向いているなどの学生がいた場合指名やお声がけをしていただき内定へつなげていけたらと思っている。

目的としては、早期内定、学生のモチベーションにつなげていけたらと思っている。

企業様としてのご意見を頂戴したいです。

金岩様) 企業数は何社なのか。やってみたらいいのではないかな。ただ、自社の場合は、企業様よりも学生のパワーバランスが強いのではないのか。

インターン後の勧誘をしてもなかなか誘いに乗ってこないのも、イメージがわきにくい。でもやってみたらいいのではないかなとは思う。

加藤様) インターンと入社があまりつながっていないので、ドラフトをしても入社につながっていないのかなと思う。他校にはない取り組みなので、入学者につながるのではないのか。

沼田様) 自分自身はインターンでは発揮できなかったもので、学校での取り組みで緊張感をもって日常を見ていただけるのは面白いと思う。

金岩様) エコスイーツでのイベント、コンテストに協賛して審査員としてかかわっていくので、話をしていくと人柄が特にわかるので、インターン以外でのかかわりがあったらその人の人柄がわかるので面白いかもしれないね。

出来ない人の方が優秀！そういう流れになったらいいよね。できないことが分かっているからできるようになる。自信過剰よりも伸び率が高いなと思う。

加藤様) 人事目線で行くと、自分のことを理解していることの方がより採用につながる。

金岩様) 素直さ、とか授業で見えてくると評価が高くなる。評価のポイントがあるといいな。

前向きに検討して進めさせていただきます。

・業界の専願・併願について

金岩様) 採用の時期を毎年試行錯誤している。むしろ傾向が分からないので、難しい。

不採用になった後がかわいそうなので、複数社受けてもいいとは思う。

学校としては、何月の募集、採用試験があるとうれしいのか。

加藤様) 早期内定をするとその後、離職率が高い傾向にある。悩むこともある。

金岩様) 何とも言えない。学校、学生に合わせる。

加藤様) 結果人柄で採用を決める。併願だろうが専願だろうが、人柄を重視する。

仕事への理解がないなど企業研究をしていないと採用はしない。

3-9 カリキュラムについて

学科のカリキュラムの学びについて

プラスワンの学びについて次年度より未来プロフェッショナル学科を別の学校でスタートをしました。ペットと美容を実践教育として+1年 目的としては、アシスタント業務など3年間かかるところ学校で指導していくことでスタイリストへの道のりを早期に習得してより早くなれるようにするための学科を設立しました。技術的には2年間で十分に始動できないので、プラス1で実践教育を中心に進めていく流れ。

パティシエの場合はこれに当てはまるのかご意見を頂戴しました。

2年制にはコース分けを現在しています。2年間基礎を行いプラスワンでコース分けをするのかご意見を頂戴しました。

沼田様) どこまでできるようになっているのかによるのではないかと。店舗に直接入った方が店舗のことを覚えられるので、あまりメリットを感じられない。継続できるかどうかは別の話になると思う。

梶) 業界のニーズがあるかどうかご教示いただきたいです。

金岩様) 1年たった人の基本給は+5000円ぐらいになる。3年の方が、基本給が高いのは不一致になる。仕事の出来高で給料を付与しているので、パティシエでは難しいのではないかと。

管理者を目指していくのであれば、知識として持っていてよいとは思いますが、かなり難しいとおもいます。自社では優秀であっても他社では使えない場合もある。店舗、企業の考え方によって1年間は大きいと感じるのでパティシエの技術職では難しい。

加藤様) 意識高ければどんな形であれ常に勉強をしているので、何年でもよい

金岩様) この1年間でいずれかの大会での受賞歴があればその1年間の価値はあると思う。コンテスト等で受賞しようと思うとならばいろいろ勉強をしないといけないので、その成長は欲しいと思う人材です。高い給与を払ってでも欲しいと思う人材であれば、1年間の成長が楽しみです。

<質疑応答>

特になし

次回開催日

令和6年度第1回学校関係者評価委員会 令和6年6月頃開催予定

第1回学校関係者評価委員会報告書

学校法人国際ビジネス学院金沢
スーパースイーツ製菓専門学校

学校法人国際ビジネス学院金沢 スーパースイーツ製菓専門学校の「令和4年度自己評価点検報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

記

開催日時：2023(令和5)年6月12日(月) 15:00～16:00

開催場所：スーパースイーツ製菓専門学校 3階会議室 オンラインにて

1. 学校関係者評価委員

<出席委員>

- ・企業等委員：金岩 重典 氏（株式会社ふらん・どーる 石川県洋菓子協会 会長）
- ・関係業界委員：加藤 高聖 氏（株式会社ぶどうの木 管理本部 総務部 部長）

<欠席委員>

- ・卒業生代表委員：沼田 和志 氏（株式会社レグレット）

<本校職員>

- ・本校教職員：梶聡司、村田直樹、土居千恵美
- ・司 会：村田直樹
- ・議事録作成：土居千恵美

2. 学校からの報告事項

- ・入学者・退学者の推移
- ・就職状況報告
- ・自己点検より
- ・質疑応答

<現在までの取り組みについて反省を行なった。>

③ 入学者の推移

資料参照

今年度の入学者としては、2年制69名1年制6名の結果となった。次年度に向けての広報活動としては現在進行中。OCとしては、動員が昨年よりも少ない傾向となっている。ガイダンスや、見学会の開催回数は増えているので、今後も入学者増加に向けて、活動していく予定。

④ 就職状況（内定状況）

資料参照

就職を希望する学生が1年制で4名、2年制61名となっている。活動の動きとしては、例年と同様の動きで4～5年前に比べると動きが遅くなってきていると感じる。

7月に福井県製菓衛生師試験を受験予定が30名弱いるので、試験が終わるともう少しスピードが上がると思っている。

3. 自己点検評価報告書の評価項目ごとの評価・意見等

項目	評価・意見等
1 教育理念・目的・ビジョン	特になし
2 学校運営	特になし
3 教育活動	特になし
4 教育成果	特記にて記入
5 学生支援	特記にて記入
6 教育環境	特になし
7 学生の募集と受け入れ	特になし
8 教職員組織	特になし
9 社会貢献	特記にて記入

4. 総合的なご意見、改善事項等

【特記】

9. 社会貢献について

5月30日に全校でゴミゼロ運動を行った。毎年年2回活動予定。8月には日本一の日として近隣のトイレ掃除の実施を行う予定となっている。

5-19 学生相談について

現在、学生の中で精神疾患を患っている学生が多く、登校できない、友達ができない等の学生が増えてきた。そのため、今年度よりカウンセラーの西先生（特別支援学校の講師）に来ていただくことになった。週に1回来校し、学生面談や職員の相談を行っている。即効性の成果はまだ出ていないが少しずつ

体制を整えて学生サポートに力を入れていきたい。

企業では、出勤ができないスタッフなどの対応をどうやっているのか傾向と対応策を教えてください。

金岩様：どうにもできないスタッフもいることはいる、もともとの人もいれば組織内でそうなる人もいる2パターン。メンタルが繊細になっている傾向。今年度からマインドフルネスを導入している。現在のスタッフは以前に比べるとストレスに敏感になっているので、ストレス緩和をしていくような職場環境を作っていく必要があると感じている。できるだけ強烈なストレスを感じないようにする。その前提でスタッフと幹部との面談を多く設けている。まだ、マインドフルネスを導入して劇的に変化があったかというわけではないが今後も継続していく。また、メンタルが繊細になっていることを組織の長や幹部も意識していく必要があると感じている。

加藤様：金岩社長と同様で最近のスタッフはストレスに弱いと感じるが、特に何かを設置しているわけではない。入りたてのスタッフには、1か月に2回ほど自分が面談をして話を聞くようにしている。現在は、自分だけなので話を聞くことのできる面談者を増やしていきたいと思う。本人が出しているシグナルをキャッチできるかどうか、話を引き出せるようにしていく。

基準 4-13

就職率について

今年度から就職支援室を本格的に始動していくこととなった。就職支援室では、各校で動いていたFMやスケジュールを学院として統一を図り、より円滑に就職活動が行えるように、また優秀な学生が優良企業へ進める仕組みを構築していく予定。企業様のご協力も必要となるのと、各種福利厚生面についても学院として基準を設けていく予定。企業様には、インターンシップの受け入れを行ってもらっているが、今後回数を増やしていくにあたり、インターンの時期として受け入れ可能な時期はございますか。

金岩様：企業側に何の目的でインターンシップをしているのかを伝えてもらえると指導しやすい。また、本来は、学校からインターンシップの依頼ではなく、企業側が企画をしてインターンを実施していくのが流れだと思う。そのうえで、どのようなタイミングで企画をすればよいか今後相談に乗っていただきたいと思う。現在検討中なのが、土日のインターンで掃除や心得、理念などを共有し会社を理解してもらい、懇親会を計画している。

加藤様：弊社としてもインターンの時期は目的に合わせて依頼をしていただければいつでも受け入れ可能となっている。企業側にインターンの指導目的さえはっきりしていれば、より学生と企業側の理解度が深まると考えている。

土居：クリスマスの時期のインターンシップでこの業界を志している学生が挫折をするパターンが少し増えてきている。なので、通常営業の様子を経験することができるとよりこの業界への理解が深まると感じているので、夏休み時期にまずこの業界を知ることが目的としたインターンを今後計画していきたいと思う。

アフターコロナについて

5月よりコロナ感染症が、5類に落ちたことを受けて企業での変化を教えてください。

金岩様：観光客が増えた影響もあり、駅は忙しくなっているが店舗は特に変化はない。もともと、コロナ感染が始まったところもそこまでコロナの影響を受けてはいない、だが、コロナよりも値上げが影響してお客様の購入控えがあると感じる。

加藤様：ケーキ屋の方は他店と変わらず昨対と変わらないが、レストラン業界は少し入りが戻ってきている。コロナ禍では、お土産商品が売れていなかったが今年度はお土産が売れていることはある。トータルの利益としてはそこまで変動はしていない。